

あなたのお店を拝見 進むべき道は、地元農家に貢献する

農機専門のプロショップへ

藤原農機店

その292

仁多米の産地である奥出雲において家族3人で経営し、地元で高い評価を受け、大規模農業法人等の新規顧客も獲得している藤原農機店(島根県仁多郡奥出雲町大馬木403-1 代表 藤原通夫氏)を訪問した。

島根県奥出雲は、日本の棚田百選にも選ばれた大原新田があり、稲の登熟期の日較差が大きいこと、ミネラルたっぷりの良質の水、仁多米の堆肥を利用し



藤原 章氏

出雲市内から車で約1時間、木次線八川駅から車で約8分。県道49号線沿いに藤原農機店があります。



藤原農機店

創業当時は唐箕や脱穀機などの扱いから始まり農機の発展とともに扱う農機も多種、大型化していききました。取扱メーカーも鈴江農機や、日ノ本・日立などを扱っていました。が、メーカーの農機からの撤退等により、平成21年からはクボタの販売店となりました。また雪の多い地域なので、除雪機の需要が高く冬の主力商品の1

2015年農林業センサスを見ても、農家の高齢化に歯止めが利かない状況で、島根県も平均年齢が70歳を越

藤原農機店の整備・修理は非常に丁寧で細部にわたって気配りされた仕上がりで定評があります。また急ぎで時間がない時の修理では、短時間で修理する方法を考へ対応するなどの臨機応変に臨める高い技術力と整備のセンスを最大限活かしていることが、好循環を生み出し、新規顧客の心をしっかりと掴んでいるのでしよう。

法人向けの新車販売は競合との相見積もりや入札等もあり、十分な利益を上げることは難しい状況で、精いっぱい値引きしても他社の価格には勝てないこともあります。しかし迅速で正確な整備技術を評価され、他社より多少高くても

購入後のメンテナンスに期待して藤原農機店を選んでくれる法人が多い。選んでくれた法人の期待にはしっかりと応えることで、整備料金は値引きせず、適正

また現状では中古農機の販売は特に力を入れます、新車販売とその整備を軸に置いて経営していくことにしています。今は中古より新車販売が大事であると判断が働いています。

企業の農業参入など今後の変化に対しては、従来の営業組合のように全員で物事を決めていく組織では対応していきかねるので、プダウンで意思決定できる組織が農業の大規

章氏は、以前に2度、仕事中に大けがをしたそうです。1度目は足首の骨折で、しばらく杖を使う生活を送り、治るまでに杖を5度も折ったとのこと。完治するまでじっとしていなかったようで

農機専門のプロショップとして地元農業に貢献していく藤原農機店の、さらなる成長発展を祈念いたします。

つとなっています。その他に小型建機を扱っています。

章氏は卒業後、他所に就職することなく藤原農機店に就職し、メーカー等の研修などに参加しましたが、ほぼ独学で整備知識、技術を覚え、農機整備技能士1級の資格も取得しました。章氏は、お客様への感謝の気持ちを口にされていた。

個人向けは鈍く、農業法人や企業が主力になってきています。

近隣にJAや大手販売店が居並ぶ中、個人販売店が法人・企業に入り込むのは苦勞も多く大変なことだと思いますが、藤原農機店では新規顧客として、農業法人や農業に参入する企業の獲得に成功しています。

この状況を維持し続けていくためには「ディスプレイカウントスーパーのように安売りするため品質やサービスを落とすような売り方ではなく、百貨店のよう

個人店が農機専門でいくためには、地域性、競合関係、その他さまざまな条件が合致し、さらに農機店自身

藤原農機店には組合活動についても積極的

す。2度目は脳挫傷で意識不明のまま、病院に運ばれ3日間入院したそうです。その時は地面の鉄板が変形した

は、体験した人でなければわからないものだったと思います。

それでも、いずれの時も退院して家で療養する間もなく仕事に戻りました。家族だけで仕事をしていたため代わりがないこともあったと思いますが、とても真似できることではないと感じます。

けが以外では、病院とはあまり縁のない様子でしたが、今後は御子息の成長を見守りながらも、50代の一番の働き盛りの章氏には健康に細心の注意を払って頂きたいと思

います。

藤原農機店

藤原 章氏と勇氏

整備工場

近隣にJAや大手販売店が居並ぶ中、個人販売店が法人・企業に入り込むのは苦勞も多く大変なことだと思いますが、藤原農機店では新規顧客として、農業法人や農業に参入する企業の獲得に成功しています。

この状況を維持し続けていくためには「ディスプレイカウントスーパーのように安売りするため品質やサービスを落とすような売り方ではなく、百貨店のよう

個人店が農機専門でいくためには、地域性、競合関係、その他さまざまな条件が合致し、さらに農機店自身

藤原農機店には組合活動についても積極的

す。2度目は脳挫傷で意識不明のまま、病院に運ばれ3日間入院したそうです。その時は地面の鉄板が変形した

は、体験した人でなければわからないものだったと思います。

それでも、いずれの時も退院して家で療養する間もなく仕事に戻りました。家族だけで仕事をしていたため代わりがないこともあったと思いますが、とても真似できることではないと感じます。

けが以外では、病院とはあまり縁のない様子でしたが、今後は御子息の成長を見守りながらも、50代の一番の働き盛りの章氏には健康に細心の注意を払って頂きたいと思

います。

藤原農機店

藤原 章氏と勇氏

整備工場